

## 豊富な旬の技術ネタを提供し 顧客の心を掴む

大阪・関西万博へ企業連携で技術発信を目指す

株式会社新日本テック



▲機能性金型部品の提供で同社を各方面から注目される存在にした和泉社長

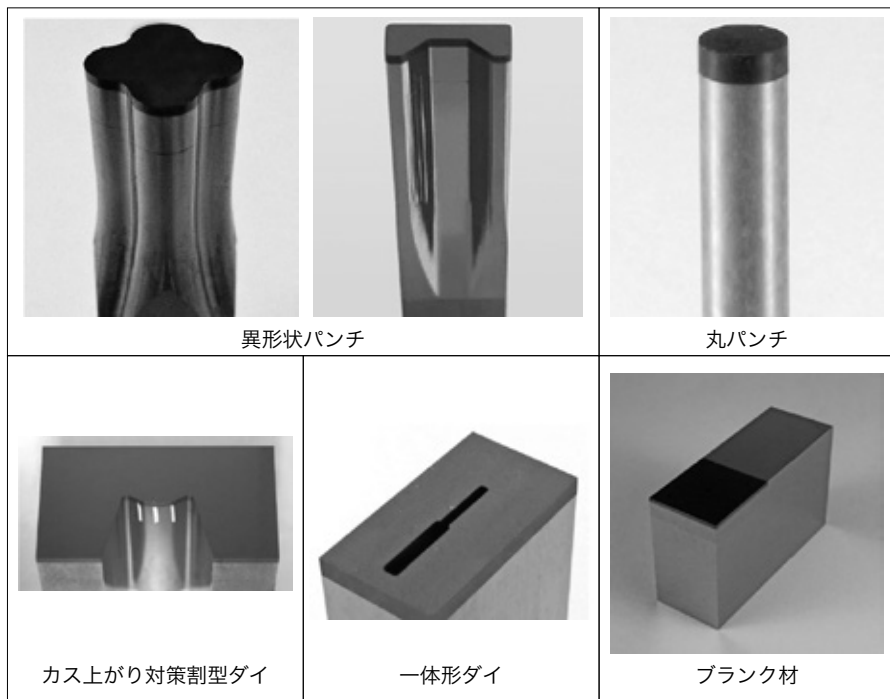
新日本テックは超精密金型や特注金型部品などの微細精密加工を手がける。取引先の業種は電子部品や自動車、光学機器、医療機器など多岐にわたる。

和泉康夫社長がポリシーに掲げるのが旬のネタを鮮度良く元気に提供する「寿司屋型ものづくり企業」。「お客さんが困ったときにいつでも提案できるよう、(技術の)ネタを増やしておくのが大事」と言う。金型や部品の受注に留まらず、自社製品の開発や企業の困りごと解決に向けた技術提案などを積極的に行い、顧客の心を掴んでいる。

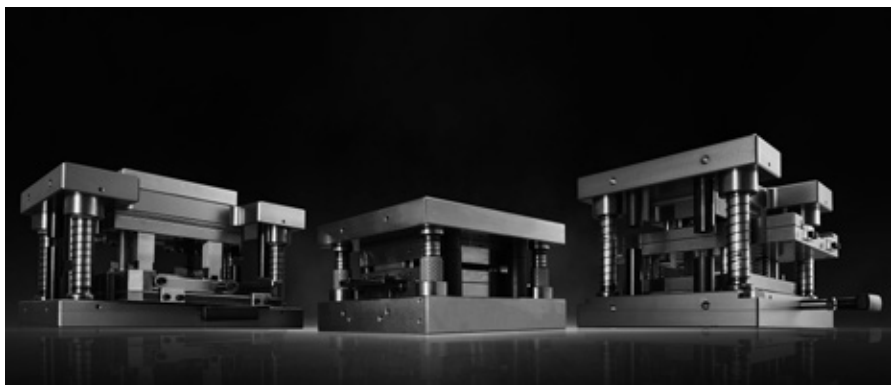
2008年に大阪府の経営革新計画に初めて挑戦し、17年には府より「経営革新計画達成企業」として証書を交付された。計画をマイルストーンに開発した極薄のフッ素被膜「SNフッ素コート」は1μm以下と極薄のフッ素被膜を金属やガラス、プラスチックなどの表面に形成し、コーティングできる素材の幅が広い。金型加工にとどまらず、未経験の分野へも積極的に挑戦し新事業を進めることで製品の幅を広げている。

また、15年の「超々モノづくり部品大賞」に選ばれた自社製品「遮熱ハット」は金型と成形機ノズルを遮熱・断熱し、熱による樹脂材料の糸引きや金型の熱だまりを軽減。成形機ノズルの消費電力量を22・4%削減するなど、省エネにも役立つ商材として注目を集めた。

近年は企業連携にも力を入れ、10年には大阪のものづくり中小企業経営者らとの共同出資による製造業のブランディング企業「大阪ケイオス



▲金型メンテナンスコストの低減に寄与するダイヤモンド金型部品



▲同社技術の適用により金型の長寿命化が可能となる

## ファスナー屋から提案型企業へ

（大阪市鶴見区）を立ち上げた。活動の透明性を確保するため株式会社の形態をとり、1社ではできない共同受注や人材育成などを協力して行っている。

新日本テックは、スライドファスナーの製造業として和泉社長の祖父が1953年に設立。父の代になってからはファスナー製造で培った微細加工技術を生かし、金型部品の製作に軸足を移した。和泉社長自身は大手メーカーに就職し、機械設計を担当していたが、父の体調不良をきっかけに家業を手伝うようになった。

当時、新日本テックの高度な微細加工技術を目の当たりにした和泉社長は「こんなにすごい技術があるのに、（中小企業では）発信が難しい」状況に歯がゆさを感じたという。「入社してまず、（社員に）得意な加工を施した製品を机に並べてもらった。つくった本人の説明を聞くと、0・1mm幅の溝加工技術などのノウハウを熱く語ってくれた」という。こうした高度な技術を広く発信するために考え付いたのが「寿司屋型ものづくり企業」である。

新製品の図面が集まる金型部品づくりは「次世代ものづくりのニーズがわかる仕事」と話す和泉社長。最新の社会動向と長年の技術の蓄積を合わせた技術提案は評判となり、微細加工に関する相談や問い合わせが格段に増えた。同時に、顧客の要望に心え続けることで、「ひと味違う金型屋」と言わしめる技術提案につながっている。その1つが、カス上りを防止するレーザ加工技術。プレス加工時のカス上りは、製品不良や金型の損傷などの原因となるため、いままも永遠の課題として、多くの生産技術担当者を悩ませている。パンチとダイのクリアランスの適正化を図るといった試行錯誤がなされている。同技術による「カス上がり対策ダイ」として提供した製品は高く評価され、「平成24年ものづくり日本大賞」（経済産業省）の製造・生産プロセス部門で優秀賞の受賞につながっている。

また、ダイヤモンド金型部品も、その代表例である。プレス金型の刃先部に焼結ダイヤモンドを使用し、耐久

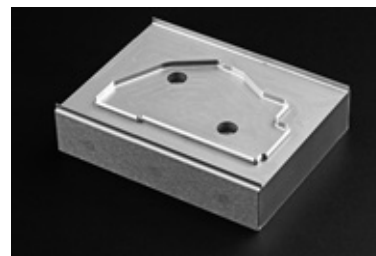
## 2025年に向け万博へ企業のものごとりを発信

和泉社長が代表を務める大阪ケイオスでは製品受注をはじめ、社員研修を構成企業が合同で行う。「働き方改革により加工を外部委託する大手企業が増えた。中小企業同士のネットワークを拡大・増強することで工程集約型発注に対応し、ものづくりをスピードアップさせる」のが狙い。挑戦に前向きな参加企業に声をかけ、製造だけでなく建築、デザイン、小売りなど結果的に業種もバランス良く集まった。

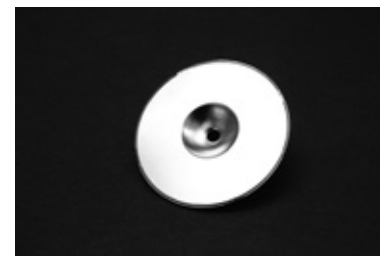
2019年に始めた新入社員向けの「ブートアップ研修」では各社の若手社員がホスト役となり、自社の工場や製品を紹介。また、営業ツールとして各社の技術や魅力をそれぞれ1分半で紹介する動画作成の取り組みも始めた。こうした活動は「自分の会社が何をやっているか知らないといけない」ため、自社の歴史や技術について社員が理解を深める人材育成の場ともなっている。

「大阪は駅前商店街のように、様々な企業が専門分野に特化し技術を深めて連携してきた。ものづくりの産業集積地が大阪東部にはあるとたくさんの人に知ってもらいたい」と語る和泉社長。今後は25年の大阪・関西万博へ向け、動画紹介などで大阪ケイオスのプラットフォームとしての魅力向上に力を入れる。

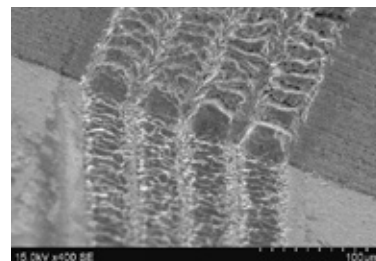
「どの会社にもものごとりがあり、製品は変われど、技術は連続と続いてきた。各社の歴史や技術、ものごとりを千夜一夜物語のようにつなぎ、『なにわのアラビアンナイト』として中小の街・大阪をアピールしたい」と力を込める。



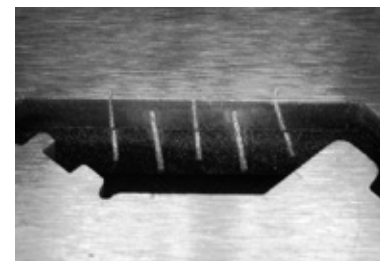
▲一体形トムソンパンチ



▲射出成形の不良防止につながる遮熱ハットは人気商品の1つ



▲レーザー加工の拡大写真

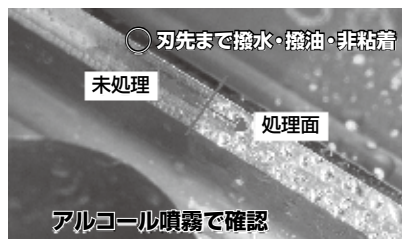


▲カス上がり防止レーザー加工

性を高めたのが特徴で、超硬合金に比し50倍超の長寿命を可能にした。同時に、金型切刃の大幅な長寿命化により製品品質の安定に加え、メンテナンス工数の大幅な低減といった効果が得られる。ステンレスのプレス加工においては焼付きの発生を抑える効果もあり、「金型泣かせ」とされるコルソン銅などの加工でも威力を発揮する。同社は、このような技術提案製品を「機能性金型部品」と称し、様々な分野に展開している。

「仕事には顧客様の仕様に応える『リクエスト』と、ものづくりの課題自体を解決する『ニーズ』の2種類がある」と話す和泉社長。「寿司屋さんに新鮮なネタがあればおいしい魚料理が提供できるのと同じように、最先端の技術や情報を集めることで提案の幅も広がる」と説く。ここに同社が持続的に技術提案できる秘訣がある。

ニーズにより一層応えられるよう産学連携にも積極的に挑戦しており、「深化と探索の『両利きの経営』を進めていきたい」と和泉社長は力を込める。



▲撥水・撥油・非粘着が求められる刃物や部品の表面に適した「SNフッ素コート」

### Company Profile

- 社名：株式会社新日本テック
- 代表者：代表取締役社長 和泉康夫氏
- 住所：〒538-0035  
大阪市鶴見区浜 2-2-81
- 設立：1953年

- 事業内容：超精密金型部品加工、機能性金型部品開発
- URL：<https://www.sntec.com>